

目標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします

SEA IWAKI

10月号／2008年10月1日発行

3つの目的

- 1つ よい社会をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

●日時
9月10日(火)
P.M.6:30~

9月通常例会

●場所
いわき建設会館

テーマ 「アルパインの環境経営(環境対策と経営効率の両立)」 講演者 アルパイン株式会社 品質技術部 十文字俊彰氏



アルパイン（株）品質企画部 高橋弘志部長

めっきり涼しい日が増え、夕方からは秋の虫達の声が耳に優しく聞こえる秋晴れの10日、三室例会委員長の司会のもと、開会の挨拶を寺主副代表に松尾例会副委員長の3つの目的唱和で通常例会は開始いたしました。

まず最初に里見代表幹事の挨拶では、いわき市議会選挙、自民党総裁選の話題の中、国内の経済状況が下降低迷をしている。東京商エリサーチの発表では福島県の1～6月の上半期の倒産状況は、6年ぶりに100件を超える倒産件数となり、104社の倒産。負債総額が548億円前年比42件増となり地方の景気も落ち込んでいること、その中でも特に建設業、運輸業が増加。9月までに運輸業者は50数社が倒産。業種的にもまだまだ厳しい状況が続きそうであるとのお話をありました。地区別でみると、いわき地区は県内で一番増加率が低く倒産件数は11件と37%増となっています。法人の赤字も全国平均は7割を超え、福島県はワーストの17番目と大変厳しい数字となっており、まだまだ厳しい景気が続くとの予想がされています。いわき経済同友会の全会員が生き残っていくためにも、会員企業同士連携を取り助け合っていきたい。また、案としていわき経済同友会として四倉工業団地進出企業に

対していろいろな企業集団として営業活動をしていきたいとのお話をありました。

引き続き、情報委員会と会員増強委員会、例会委員会から連絡事項。9月の誕生月花プレゼントを行いました。

また、ニノテック(株)加藤雅博さんから新会員として初参加のご挨拶を頂きました。

最後に今月の講師アルパイン(株)の高橋さんと十文字さんに「アルパインの環境経営」について講演を頂きました。



左から里見代表幹事、大和田 宏さん(9/9生)、
加藤雅博さん(9/30生)、三室啓記さん(9/1生)

演題

「アルパインの環境経営」環境対策と経営効率の両立

講師 アルパイン(株)品質企画部 高橋弘志部長 十文字俊彰氏

講演に先立ち9月度例会担当の「人材育成研究グループ」リーダーの小野英典さんより、今回の講演のテーマ決定の経緯と講師紹介がありました。環境問題は現在、毎日のようにニュースやCM等に取り上げられ、大変身近な話題であることから、いわき市内で積極的に取り組んでいる企業として、アルパイン(株)様の取り組みについて、ぜひ紹介したいと講演をお願いしたとのことでした。

講演はまず最初に、高橋弘志部長よりアルパイン(株)の事業と会社概況について説明がありました。アルパイン(株)は1957年5月設立。2007年度売上は連結ベースで2,520億円。従業員数は同じく13,403名カーオーディオ、ナビゲーション等の開発製造販売を行っています。自動車メーカー向け製品が75%国内ではホンダ、トヨタ。海外ではベンツ、BMW、GM、クライスラー等優良自動車メーカーとの取引があります。国別では米州が36%欧州が39%日本国内は13%となっております。販売開発生産体制は、ここいわきを本社としてアメリカ、メキシコ、ハンガリー、中国、タイ等全世界に生産拠点販売網があります。1967年にいわきに進出後いわき市とともに成長を続け、本社以外に現在関連会社6社を構えるようになり、合計4,200名がいわき市で従事しております。親会社であるアルプス電気のペリフェラル事業部を加えるといわき市で働くグループ社員は5,700名となります。高橋部長のお話の最後にアルパイン(株)の企業理念である「個性の尊重」「価値の創造」「社会への貢献」と企業ビジョンについて説明がありました。

引き続き十文字さんから「持続的なモビリティ社会の実現に向けて」として環境経営についてお話がありました。まず、企業の社会的責任(CSR)の取り組みのとして「お客様、サプライヤー、会社構成員、投資家、地域社会等多様なステークホルダーの皆様との良好かつ信頼関係を得て持続的に成長する」という狙いと企業の役割があり、CSRは「企業理念を具現化するための経営活動そのもの」であるとのことのお話と推進体制について説明がありました。次に「環境法規と電子機器業界の抱える課題」についてお話がありました。世界人口の増加に伴い地球規模の気候変化将来的には資源の枯渇や自然災害や有害化学物質の増加等「規制の強化による環境保全が不可避」であるとのことです。またこの環境問題はグローバル化が進み、1992年の地球サミットにおける行動計画(アジェンダ21)から2005年の京都議定書と国際条約や指針に基づき各国、地域での法整備が進んでいます。環境規制を事業所と製品でみてみると、事業所関連では省エネ法や廃棄物の処理及び清掃に関する法律等各国内外でクローズしますが、製品関連は有害物質規制や製品の環境負荷等経済のグローバル化に伴い国内ではクローズしなくなっています。事例として「地球温暖化に関する法規制と経営リスク」として京都議定書

でのCO2削減目標と日本の実績と土壤汚染に関する法規制とリスクとして米国の「ラブカナル事件」について説明がありました。また製品に対する環境規制が世界的に拡大し、その法規の遵守が企業として最低限の責務であり最優先事項であり法律違反が企業存続の危機になるため、関連する海外の法律情報をタイムリーに捉え確実に対応することがコンプライアンスの観点からも大事であるとのことでした。最後にアルパイン(株)の環境経営についてお話をありました。アルパインは環境方針として、「私たちは地球社会の一員として、自らの責任において、「はやい」「かるい」「みえる」活動を行い環境対策と経営効率の両立を目指します」と設定し具体的な対策を実施しています。環境保全の取り組みとして環境配慮製品、廃棄物管理、科学物質管理、地球温暖化防止、社会貢献を経営効率の取り組みとしてはコスト削減、コンプライアンス、顧客満足・品質向上、企業評価、モラル向上という視点で地道で継続的な取り組みを行っています。事業所としてゼロエミッション(廃棄物ゼロ化)の取り組みを行い分別基準・しきみの構築(45種類の細分化、フロアに分別箱配置、エコステーション設置等)を行い、廃棄物パートナーと廃棄費用削減や有価売却、リサイクル化を実施。併せて社員教育・啓蒙活動を行っています。その他事例として使用済み用紙を製品の緩衝材使用、基板類の再資源化、マイカップ運動による紙コップ廃止等を行い再資源化99.6%を実現し福島県主催の2006年ゼロエミッション活動提案コンクール事業者部門で優秀賞を受賞しました。製品に対する取組としては製品のライフスタイル全体で環境負荷(エネルギー/原材料(化学物質)などの投入)の小さな製品開発。グリーン調達として取引先に環境ISOの取得や環境に優しい部材の納入を求めていました。具体的にはスピーカーの取り組みとして従来より60%の軽量化、小型化、鉛フリー半田の使用や梱包改善として容積34%改善等積載効率約2倍、発砲スチロールから段ボールへ変更等。環境配慮製品として基板の有害物質90%削減や安全・エコ機能を取り入れた製品の具現化を行いました。システムとしてISO14001の認証取得を本体以外に国内の生産子会社、ハンガリー工場、中国、タイ、メキシコの各生産工場で取得いたしました。企業の環境の取り組みは消費者の購買行動への影響が7~10%あるといいます。コミュニケーション活動としていわき環境展への参加、いわき市内海岸清掃、産学官プロジェクト参画を行い、CSRレポートを発行し活動を積極的に公表しています。そのような活動の結果、日経環境経営度ランキングで2007年度28位にランキング。モニングスター社SRIファンド組み入れ銘柄150社に選定されました。講演の最後に高橋部長から、今後とも地域に貢献した活動をしていきたいとのお話をありました。

9月グループ会報告

人材育成研究グループ会

■日 時 9月17日(水曜日)18:30~

■場 所 報徳苑

■内 容 1)同友会活動報告 ①9月担当例会振返り
②役員選考スケジュール等 2)10月以降の例会について
○テーマ研究

1)入社式について

- ・入社後最初のイベントとしてどのような内容か情報を交換した。
- ・TOPの想いについて社員が理解できる最初のイベントとして重要。

2)新人研修について

- ①具体的に各社がどのような事を実施しているか、その課題について話していただきディスカッションした。企業形態により様々な対応がある。(研修方式・OJT重視)



- ②入社した社員がこの会社に入って良かったと、自社を誇りに思える最初の受け入れ体制と教育。

- ③業種・業務毎のプロ(専門家)としてどう考えるか、

対応しているか必要事項についてディスカッションした。

経営品質向上グループ会

■日 時 9月29日(月曜日)18:30~

■場 所 報徳苑

■内 容 テーマ:『経営品質を高める考え方について』

講師:東京海上日動火災保険(株)いわき南支社 島崎支社長
・経営品質向上プログラムを導入するメリット

- (1) 卓越した業績を生む経営体質を創る。
- (2) 経営上重要な改善領域が明確になる。

- (3) 経営の有効性を検証できる。

- (4) 繙続的な改善により自己革新能力を高めることができる。

- (5) 多様な改善活動の一貫性、実効性を高めます。

・日本経営品質賞・アセスメント基準の構成

- (2) 経営品質基本理念

- ①顧客本位:企業・組織の目的は顧客価値の創造
- ②独自能力:独自能力の追求が重要



③社員重視:社員一人ひとりの尊厳を守り、彼らの独創性と知の創造による企業・

④社会に貢献し、調和することが重要

経営戦略グループ会

■日 時 9月25日(木曜日) 19:00~

■場 所 いわき建設会館

■内 容 会員企業である、(株)マルト 人事総務部長石山伯夫(いしやまのりお)氏をお招きし、人事・教育・最近の法令対策を(株)マルト様の例をあげて頂きご講演を頂いた。

高崎グループ長より、事業計画に基づき外部講師をお招きし、勉強会を開催し非常に、勉強になった。12月は、担当例会の開催でありご協力をお願いしたいと挨拶がありました。

ご講演の内容は

1. 人事制度
(賃金・評価制度)
社員700名、タイム
社員1,300名
2. 教育制度 年間50
日の研修の実施
3. 最近の法令対策



- ①改正パート労働法 ②管理職残業問題

- ③高齢者雇用 ④雇用機会均等法 ⑤外国人労働者雇用
⑥障がい者雇用問題

について資料をご提示いただき、ご説明を頂きました。

賃金評価制度においては、「功あるものには禄を、能あるものには地位を」を根本思想に長年のデータの蓄積から独自の賃金評価制度の構築を果し、雇用機会均等法ではレジ係に男子社員の採用がないのは、雇用機会均等法の観点から指摘を受け、新規採用を実施したなど、通常では気付かない貴重なお話を頂きました。

最後に清水屋清水社長より御礼のご挨拶を頂き閉会をいたしました。

人材交流グループ会

■日 時 9月26日(金曜日) 18:30~

■場 所 建設会館

■内 容 講師に「小名浜まちづくり市民会議」小野事務局長をお招きし、建設会館にてグループ会メンバーを中心に6人で開催された。

小野事務局長より、①小名浜まちづくり市民会議の設立経緯、②港まちおなはまのグランドデザイン、③アクアマリンパークの管理運営や倉庫リニューアル事業(小名浜美食ホテル、潮目交流館)等の具体的取組みについて説明を受け、その後意見交換を行った。

ウォーターフロントの再開発を官民一体で取組んでいる同会議は全国各地の港まちづくりのモデルとなっていること、小名浜東港の着工にあたっては「まちづくり」との連携を取るため小名浜港湾事務所と協議を重ねていること、グランドデザインに基づき、福島臨海鉄道を移転し鹿島街道の拡幅と港直結により港とまちの一体的な活況を目指している等の理解を深めた。

また、小名浜花火大会での苦労・こぼれ話も聞くことができ、大いに盛り上がった。

平成20年度第二回新入会員オリエンテーション開催



前回の7月28日に引き続き、報徳苑において本年度第二回目の新入会員オリエンテーションを開催致しました。参加の新入会員の皆さんご苦労様でした。
【会員増強交流委員会】

会員懇親ゴルフ大会のご案内

木々の葉も色付きはじめ、爽やかな季節となりました。今年も恒例の会員懇親ゴルフ大会を右記の日程で開催致します。

会員の皆様には 是非とも多くの方にご参加賜りますようお願い申し上げます。

●会員増強交流委員会



- 日 時：平成20年11月5日(水)
午前8時30分集合
- 場 所：新たいらカントリークラブ
- 会 費：2,000円
プレー費：5,000円（セルフプレー、昼食付）

10月グループ会ご案内

- 人材育成研究グループ会／10月22日(水) PM6:30～ 報徳苑
新入社員・中途採用への教育(その2)受け入れ体制、企業風土、その他
- 経営品質向上グループ会／10月21日(火) PM6:30～ いわき建設会館
メンタル・ヘルスから見た組織活性化のヒント～すぐれた組織は人的資源をどうみているか～
- 経営戦略グループ会／10月27日又は28日の予定 PM7:00～ いわき建設会館 株ハニーズ大内典子氏 講演
- 人材交流グループ会／10月17日(金) PM6:30～ いわき建設会館 10月例会にて講演会
- ビジネスモデル研究会／10月15日(水) PM6:30～ 報徳苑 ビジネスマネジメントの研究

会員はどのグループ会にも出席できます。グループ長にお申し込み下さい。

10月通常例会・臨時総会のご案内

10月17日(金)

P.M.6:30～ 食事会
P.M.7:00～ 例会
P.M.7:15～ 臨時総会・講演会

○会場/いわき建設会館

○会費/1,000円

講 演 会

演題 「産業振興に関する取り組みについて」

講師 いわき市商工観光部 産業・港湾振興課係長 齊藤和哉氏

いわき市商工観光部 産業・港湾振興課主査 江尻哲生氏

いわき経済同友会
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます
●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

発行 いわき経済同友会 里見 潤
編集 情報委員会 清水雅昭
委員 広報担当 岩尾英子・高萩和義・中田博道・山崎勇喜 HP担当 坂本和久・阿部晴康

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp